

もう春だから。

作・演出 … れい 潤色 … 入梅

テーマ … 人形、大正時代風、アンティーク

【登場人物】

ユウ … 森本 記加

つくりたての木製人形。「ココロ」をまだ持っていない

すぐる（優） … 大塚 健洋

アイとユウを作った。両親がいない。

アイ … 矢田 みなみ

木製人形。突然家を出ていった。「ココロ」を持っている

こはる（心春） … 吉田 里緒

アイと友達。生き生きとしている。

アイ（下手）とユウ（上手）、それぞれ椅子に座っている（板付き）

映像（歯車が動いているとか）

S トンカチの音や歯車の音とか入れてほしい

照明変化

アイ、ゆっくりと目を開く。

すぐる、上手後ろ登場

アイ その子、誰？

すぐる この子は、君の弟になる。大切にしてくれよ。

アイ …へえ。そうなんだ。

アイ、立ち上がり、下手側へ

すぐる アイ、どうかしたの？

アイ ねえすぐる、その子がいるなら、ワタシ、もういいよね。

すぐる 何が？

アイ さようなら。

すぐる …え？なんで、

アイ ワタシ、人間になるの。

アイ、下手前退場

すぐる、追いかけることができず立ち尽くす

場転

すぐる あれからもう、どのくらいたったんだろう。でも、これできつと…

すぐる、柵からパーツを持ってきて、つける。(みたいな)

すぐる おはよう。俺の名前はすぐる。

ここが君の住む場所で、ここで君はつくられた。

これから、一緒に暮らしていく。

君の名前は、ユウ。…どうだろう、変かな。

ユウ (目を開く) …承知いたしました。すぐるさん。

すぐる 敬語なんてやめてくれよ。あと、すぐるって呼んでほしいな。

ユウ 承知…。ごめん、分かった、すぐる。

すぐる うん、ありがとう。そうだな、まず、君は何をしたい？

…。

えっと、君のやりたいことは？

ユウ 無い。

すぐる …そうなの？

ユウ すぐる。何か僕にやってほしいことありそう。

すぐる え。分かっちゃう？

ユウ 僕、何でもやるから。

すぐる …実は君のお姉さんである人形に、アイに、俺はもう一回会いたいんだ。

手伝ってくれるか？ああでも嫌だったら、

ユウ 分かった。

すぐる おお、そっか。…じゃあ、外に出ようか。俺も一緒に探すから。

ああちよっと待って。お姉さんの顔、見せないと探せないよな。

すぐる、奥の棚を探す

すぐる あつ、でもパーツを全て取り換えていたら、分かんないか…。そうだった…。

ユウ このガラクタは、なに？

すぐる ガラクタじゃないよ。ガラクタじゃなくて、想い出。大切な想い出。

こはる、上手登場。上手の椅子に座り、本を読む。

すぐる 君のお姉さんとは、ずっと一緒だったんだ。

子供の頃から、ずっと一緒にいてくれた。…なのに、どうしてなんだろう。

ユウ どうかしたの？

すぐる …いいや。取り敢えず、これを頼りに、二人で手分けして探しに行こう。

今日こそは、

こはる 今日こそは、

すぐる 見つけたい。

こはる 来るかしら。

すぐるとユウ、下手後ろ退場。

アイ、下手前登場。

アイ あら。久しぶり。

こはる …！アイ！久しぶり！元気だった？

アイ すごいうれしそうね。

こはる　だって、心配だったのよ？

貴方が突然、顔を出さなくなったものだから、嫌われたのかと思って。

アイ　別に平気よ。あんたのこと嫌ってなんかないわ。どうでもいい。

こはる　貴女らしいわね。

アイ　今日はお別れを言いに来たの。さようなら、じゃあね。

こはる　…え！待って！どうゆうこと？理由を言って？

アイ　ああ。ワタシ、人間になろうと思って。

こはる　にんげん？

アイ　家出したのがちょっと前で、初めはフラフラとしていたんだけど、やっと何処へ行こうか決めたから。アタシがアタシで居られる場所、見つけた気がするの。

こはる　…。待って。…こんなこと聞いていいのか分からないんだけど、

お人形さんって、人間になれるの？

アイ　なれる。

こはる　…ほんとに？

アイ　…ワタシを疑うのね。

こはる　いいえ、そうじゃないのだけれど。

アイ　別に、誰にどう言われようとワタシ行くから。さよなら。

こはる　一人で？

アイ　…ええ。私はワタシ、一人だけよ？ひとりで、ワタシは生きていく。

アイ、上手前退場

こはる　…アイが、そういうのなら、良いのかな…？

すぐるとユウ、下手前登場。

すぐる（下手）　ここはる（上手）、椅子に座る。

場転（電車内）

S　電車の音

ユウ、手すりにつかまっているがふらふらする。（S音少し欲しいかも）

こはる、また本を読もうとするが時折ぼーっとする

すぐる　座らなくていいのか？

ユウ　…大丈夫。

すぐる　無理するなよ、結構歩き回ったんだから。割れ目でも入ったら大変だ。

ユウ　外って、色々あるんだな。色々な人もいる。

すぐる　ああ。家の中よりすごい賑やかだろ？

ユウ　うん。五月蠅い。

すぐる　そう？俺は良いけどな。一人の時間は、寂しいから。

ユウ　…さみしい？

すぐる　うん、寂しい。だからにぎやかだと、俺は嬉しい。

ユウ　…そうなんだ。

すぐる　君にはあと一つ、足りないものがあるみたいだ。

ユウ　不良品ってこと？

すぐる　違うよ。…君は全然違うな、アイと。

こはる　アイ？

こはる、顔を見上げる

こはる　（ユウの方を見て）お人形さん？

すぐる　！すみません、あの、アイを知っていますか？えと、綺麗な人形の、
こはる　！貴方達、アイの知り合い？

S 電車が止まる音

思わず立ち上がっていた二人はよろける。

ユウ　すぐる。大丈夫？

すぐる　うん、あぶなっ。

こはる　ごめんなさい、ついはいでしまつて。
もう降りる？私は降りてしまうのだけど。

すぐる　あ、はい。降ります。ユウ、降りるぞ。

ユウ　分かった。

場転

こはる　わざわざありがとう。一緒に降りてもらって。

すぐる　いいえ。あの、俺達、アイを探しに来たんです。

俺がもう一回会いたくて、でも何処にも居なくて、

だからユウにも手伝ってもらって。

こはる　もしかして、不器用さん？

すぐる　え？何ですか？

こはる　多分だけど、アイが貴方のことを不器用でとろくさくて、そんなものだから友達
いない人って、言っていたわ。

すぐる　ええ、なんで…

ユウ　　すぐる？

こはる　　貴方は、お人形さんなのね。アイと同じ。

ユウ　　はい。

こはる　　…実は、あの子には、今日お別れを告げられてしまったの。

お力になれなくてごめんなさい。

だから、こちら辺にはもういないのかもしれない。

すぐる　　そうなんですか。…俺、お別れの挨拶、できてないんです。

それに何で出ていくのかがまだ分かってない。

こはる　　人間になるって、言っていたわ。

すぐる　　それは、確かに言われました。けど…

ユウ　　すぐる。人形って、人間になれるのか？

すぐる　　…それは、

こはる　　なれるって言っていたわ。アイが。それに、やっと見つけたと言っていた、

ワタシがワタシで居られる場所。

すぐる　　…俺と過ごした時間が、嫌だったってことかな。

こはる　　…今ならまだ、間に合うかもしれないわ。三人で手分けして探しましょう？

私も、少し引つかかることがあるの。

すぐる　　…はい、ありがとうございます。ユウ、まだ手伝ってくれるか？疲れたなら、

ユウ　　分かった。

こはる　　ありがとう。私はあっちの方へ行くわ。

すぐる　　俺はこっち。ユウはそっちな。

アイ　　私はどっちかしら。

アイ、上手奥登場。

場転

アイ　いつだって、色んな姿になってきた。ワタシじゃないようなワタシ。
歯車ひとつ、変えるだけで、なんだか気持ち悪い。

S　からくりの音（2）。照明変化

アイ、からくり人形のような動き
その最中、すぐるところは、探しながらハケていく。

すぐる　アイ！何処に行ったんだよ、帰ってきてくれよ！
こはる　アイ？私、貴方に伝え忘れたことがあるわ！

S 終了後に、ポーリングして止まる

アイ　ねえ聞いて？ワタシを知れば知るほど、ワタシがワタシであろうとすればするほど、何故かどんどん苦しくなるの。

S　からくりの音（2）。照明変化

アイ　今までだって、ワタシは確かなものであったのかしら？
ワタシ、ちゃんと笑えてる？…ねえ、聞いているんでしょう？
ユウ　ああ、聞ける。初めまして。

場転

ユウ　そんな所で何をしているんだ。

アイ あらバレちゃった。初めまして。

ユウ …初めまして。

アイ ワタシ達、大変ね？歯車ひとつ壊れるだけでワタシ達は止まってしまおう。
いつまでも、何者でもない、不安定なワタシ達。

ユウ すぐるが会いたがっている。

アイ それはどうでもいい。そういえば、あんたも来る？同じもの同士。

ユウ …どうでもいい。

アイ …ああそう。あんた、変わってるわね。

ユウ なあ、僕ら人形は、人間になれるのか？

アイ ええそうよ。何？ワタシを疑う気？

ユウ 人間になって、どうしたいんだ。

アイ …人間になって？

ユウ 人間になってもならなくても、

僕にとってはどうでもいいから。分からなくて。

すぐるが悲しいって言っているから、帰ってほしいって言ってるから。

だから、

アイ ああ、変わっているんじゃないか気色悪い。本当に気色悪い。

ワタシ、あんたのこと大嫌い。何も考えないのね、自分のこと。

ユウ …自分？

アイ あんた、すぐるの道具にされているのよ。

お手伝い人形、ただのおもちゃ。

ユウ 道具。

アイ ワタシ達、壊れちゃったら取り替えられるのよ。

足も、腕も、顔も、「ココロ」も。

ユウ …「ココロ」？

アイ 私にはある。

ユウ 僕にはない。

アイ 私であるという確かなもの。

ユウ どこにもない不確かなもの。

…それって、必要なのか？

アイ あんたにとつてはどうでもいいのかもしれないけれど。

ワタシはずっと、嫌だった。だからワタシはもう帰らない。会いたくない。

ユウ …キライ？

アイ そう。キライ。ワタシを殺そうとしてくる奴はみんな死んでしまえばいい！

こはる アイ！そんなことを言っちゃダメ。

ユウ、胸の辺りを抑える

こはる、登場。

アイ 何？お別れしたじゃない。

こはる そんな嘘をついちゃダメ。

アイ …うそ？どこが嘘だって言うの、これがワタシの想いよ！ワタシの「ココロ」。

こはる …違うでしょ？アイ。

アイ 代わりなんていくらでもある、いくらだって取り換えられる、壊されていく、

そんなワタシじゃ、価値を見出せないの！

すぐるだって、ワタシが要らなくなったからあんたをつくったんだ。

あんな奴、大嫌い。

こはる …アイ。

アイ 貴方はワタシを好きだと言ってくれたけど、

でもそれって本当にワタシなのかしら…。

こはる …それは、

アイ 何も言えないのね。もう関わらないでよ。

アイ、退場

こはる …ユウ君、大丈夫？

ユウ …あの人が何を言っているのか、僕には全く分からなかった。

あんな傲慢なもの、僕には理解出来ない。

…あれが「ココロ」なの？あんなに醜くて、苦しそうで…。

人を傷つける可能性があるのなら、僕には要らない。

こはる …でも、「ココロ」を持つことで、できることもあるのよ？

人の痛みを、もっと分かってあげられる。もっと相手を大切に出来る。

…今さっきの私は、大切にするばかり、何も言ってあげられなかった。

ユウ …もっと、人を大切に出来るの？

こはる ええ。貴方は、優しい人だから、きっと貴方のためになるわ。

うん。よし、私、少し準備をしてくるわね。

アイを見つけたら、すぐる君経由で教えて？

ユウ 分かった。

こはる、退場

すぐる、登場。

すぐる 大丈夫か？疲れてない？

ユウ …ごめん。アイを連れ戻そう。

すぐる ユウ。命令じゃないからね？

ユウ …？すぐるが困ってる。だからやる。

すぐる 自分は？自分はどうしたいの？

ユウ どうでもいい。

すぐる どうでもよくない！ユウが嫌になったのなら、今日は帰ろうよ？

俺は、知りたいよ。大切な人の気持ちが知りたい。

…言ってくれなきゃ、分かんないんだよ…？

ユウ …ごめん。すぐる。ボクは、どうしたいんだろう…。

すぐる いいよ。取り敢えず帰ろう？

ユウ、椅子に座る

場転（すぐるの家）

すぐる、奥の棚を眺める

すぐる …アイって、形だけの想い出を残しても意味が無いつて言うんだ。

いつつもなんか厳しくてさ。…でも、俺を独りにしないでくれた。

「ココロ」って、苦しいし、怖いし、醜いつて想うかもしれないけれど。

でもその中に、嬉しいって想いも綺麗って想いも含まれているから。

それら全部が、自分だから。…だから、

照明変化

すぐる そんな願いを、二人に込めたんだ。

S ドア音

変化

すぐる アイ…。来てくれたの？

アイ あなたは勝手なんだって、最後に言いに来た。

散々こき使っておいて、色んなパーツに取り替えて、結局次の人をつくっちゃって。ワタシのあの時間、返してよ。

すぐる …それは、…えと、

アイ どうせワタシに飽きたんでしょ？従順なお人形さんが欲しくなったんでしょ。
いいわ？別に。どうでもいい。けれど、ワタシはそれで傷ついた。

すぐる !ごめん。でも、ユウは従順なわけじゃない。ユウは…

アイ 今更もう遅いのよ。ワタシに帰ってほしいなんて思わないで？

ワタシは、ワタシが大切だから。

すぐる …。

アイ …ねえ、なんでいつも何も言わないの。そういうところが、キライなのよ。
すぐる …！

ユウ アイ！！

S からくりの音

アイ なに？

ユウ すぐるが傷ついてる。

アイ ワタシが先に傷ついてる。

ユウ …なんでお前は自分勝手なんだ。

アイ なんでアナタは他人本位なの？

あんた一人じゃ何も出来ないくせに。

ユウ 僕ら人形が、一人じゃ何も出来ないんだ。

アイ 一緒にしないで。…もう出ていくから。

ユウ 待って。すぐるが、言いたいことを言えてない。

アイ どうせ何も言えないのよ。だって、ワタシが言ったことが本当だから。

ユウ …！決めつけないでよ！

ユウ、両手で胸の辺りを抑える

ユウ すぐるの想いを…決めつけないでよ…！！

アイ …言われる前からわかってる。

ユウ 怖いんだろお前は！それ以上を知るのが。

ユウ そりゃそうか、自分のことが大好きなんだから。

アイ は？…怖がつてるのはあんたでしょ？

ユウ …僕は、怖くない。いいや、本当は怖いけど、大切な人のためだったら、僕は、どうなっても良い…！

すぐるは、お前を想っているのに何でそれに気づかないんだ。

人の想いに気づかずに、何で一人で歩こうとするんだ。

…僕らは、どれだけ願っても人間になれるわけじゃない。

自分なんて、不安定だよ。

だけど、大切に想ってくれている人達すらも信じられなくなるような、

そんな弱い僕たちじゃないだろ…！

…僕は…！

照明変化

ユウ 大切な人の痛みを、喜びも、悲しみも、全部、分きたいんだ。

それが、ボクだよ。

アイ …。すぐる君。ごめんなさい、話を聞かなくて。

すぐる …ううん。何も言えなかった、俺のせいでもあるから。

…ごめんな、君はあまりにも綺麗だから、色んな外見にしてみたくて。

そして、君は夜眠れないから、少しでも寂しくないようにって、

ユウを作ったんだけど…。勝手なお世話だよな。

アイ …いいえ、そうだったのね。ようやく、ちゃんと向き合えた。

けれど。もう、春だから。お別れの季節。

このままは、ワタシにとって苦しいの。

ワタシはやっぱり、違うところへ行きたい。

…ごめんなさいね。…ユウ。すぐる君を、よろしくね？

ユウ うん、いいよ。

すぐる よろしくな。…もう、痛くない？

ユウ なんだか、すごい苦しいんだけど、なんだか、とっても楽しい。

場転

大きい鞆を持ったこはる、奥の棚を眺めている

アイ、前の方から通りかかる

こはる アイ！私も、ついていって良いかしら？いいえ、ついていくわね！

アイ 何で急に。

こはる 一人になっても生きていけちゃうなんて、そんな振りをしているだけでしょ？
誰だってひとりで生きていけないわ。

アイ あら。バレてた。

こはる ねえ、お人形さん。

前の貴女も、今日の貴女も、綺麗なことに変わりはない。

アイ …それはそうよ。だって、ワタシはワタシなんだから。

Fin